

別紙 意見交換概要

【財政健全化計画の取り組み状況について】

・ 何年か前に、平準化ということで借金の先送りをしたが、今後増えていく返済額の中で、年度ごとに平準化したことによって増えた金額はどのくらいなのか。	・ 平成17年に借り換えによる平準化をして、その返済が今年から始まって、4～5年くらいが厳しい状況になる。金額にして約4億円から5億円になる。
・ 自転車操業的な状況になりつつあるのかなという危惧があり、また4、5年後には平準化だとか借り換えだとかといった小手先のことをやりながらずっと続くのかといった危惧がある。	・ 新しい計画ではまた借り替えたりという自転車操業のようなことは考えていない。17年の時にも21年から返済額が増えるということがわかっていたので、その間でも健全化計画を進め資金を貯めていた部分もあり、今回の計画では新たに財源の確保する分もあり、それらを含めて全体の財源を調達して、返済額の増えた分と病院への支援を7年間で続けていきたいと考えている。 ・ 財政再建に向けて単に借金の先送りという厳しい指摘もありましたが、後世に残すことなくしっかりと自治体経営を責任を持ってやっていかなければならないと思っている。
・ 国も赤字で、それを直すのに人件費を見直している。市の赤字を解消し財政を健全に持っていくために、今の職員の定員とか施設の運営費とか市議会議員を含めて人件費のことをどのように考えているのか。	・ 人件費では以前から取り組んでいて、市の職員の人件費は最初は4%、それが7%になって、11%になって、今年から20%の削減になっている。議員の報酬は今年から15%削減になっている。職員の数も今現在192人で、今までも減らしており、計画の終了する27年には179人まで徐々に減らしスリムな市役所を計画している。

【市立病院の経営状況について】

・ 留萌市民が深川の第一病院や滝川の病院に行っている実態がある。医者が足りなくて仕方なく行っているのかどうか、病院としてどのような分析をしているのか。	・ 留萌市立病院は発症して早い段階で治療するという急性期の病院で二次医療機関になっているので救急の受入などもしており、深川第一病院などは療養型という長期にわたって治療する病院ということで、急性期病院の治療が終わってから行く病院なので、同じ治療をする病院ということではないことを理解いただき、留萌市内には長期療養型の病床が足りないということで、地方の病院にやむなく行かなければならないという実態がある。 また、国保のデーターでは人数にして15%ほど、金額にして約1/3に相当する方が地方の病院を受診するという結果になっている。現在市立病院には脳神経外科医が1名しかいないので開頭手術ができないため、救急で運ばれてきた患者も一次の処置をして専門医に送らなければならないといった部分も含まれている。市立病院がいやで他の病院に行っているのではなく、市立病院として専門的に診ることができないので、止むを得ずに他の病院に紹介をして行ってもらっている実態がある。
・ 市内の開業医、医師会との協力、連携を取れないのか。	・ 院内に地域医療連携室があり、そこで1次医療機関である市内の開業医の方と密接に連絡を取り、一次の病院で対応できない場合は紹介という形で市立病院で診療し、市立病院で対応できない場合は三次の医療機関である旭川などの病院に紹介している。 また、国では一次、二次、三次の病院と区分けをしていて、二次医療機関は一次の市内開業医から紹介があった患者と入院患者をしっかりと診なさいというのが国の指導で、市立病院としては市民の皆さんの一次のことも二次のことも一生懸命やりたいが、国としては二次医療機関に徹した診療をしろという指導を受けている。
・ 公立病院を一概に財政面だけで話をすることは心苦しく、ここ最近の医師確保の努力などもだんだん実ってくるものと思っているが、当面、計画を進める中で今の努力が報われるのはいつ頃になるのか。また、単年度でせめて収支均衡が取れるという予測はつくのか。	・ 不安定な要素もたくさんあるが、いい要素も出てきているので、今の段階では何とか21年度末には収支均衡が取れる形を取りたい。その後も継続する努力を続け、計画が終了する27年度には不良債務をゼロにしたいと考えている。
・ 市立病院で今年立てた計画が早くも崩れているが、今後の見通しはどのようなのか。	・ 予定していた循環器の医師3名の派遣が半年間遅れるという点は不安定要素で減収が見込まれるが、新たな取り組みの中で明るい兆しとして脳神経外科が1名、腎臓内科1名、循環器については何とか派遣できないかお願いをしているところで、数だけという循環器ではないが頭数だけはなんとか揃えられるのではと考えている。

・ 眼科の固定医の見通しはどうか。	・ 札幌医大の派遣縮小により8月からは派遣中止という状況になり、急遽旭医大にお願いをして、学長からは、旭医大としても大変厳しい状況ではあるが留萌市立病院に対して協力はしていきたいということで、出張医ではあるが11月からは白内障などの手術をできる体制を週1回何とか確保できるように大学としても応援していきたい、眼科固定医に関しては、年度途中で大学の人事を動かさないということで、来年4月を目処に固定医化を図りたいというお話をいただいている。
・ 将来的にはという要望、旭川の眼科に通っているが年を取ってくると遠距離の通院が不安である。市立の眼科の先生を固定していただくと安心できる。	・ 旭川医大の学長から、年度途中の固定は大学の方の都合もあって難しいが、新年度からは何とか固定医の配置に協力したいと言っている。現在も道立羽幌病院に旭川医大から週2日派遣しているので、そこの連携も含めながら検討していきたい。留萌で行う手術も吉田学長が旭川の方で遠隔医療で手術の状況を見て、一日でも早く退院をしていただくフォローもしますよと言っている。今まで以上に良い環境が整うと考えている。
・ 医療費の滞納の状況はどうか。	・ 今年度の滞納額は1億4千万円強あり60%は市内、その内支払能力があると思われるが応じてくれないのが約300件、残り40%が増毛、小平、羽幌、留萌管内と概ね救急車で運ばれてくる比率と同じくらいの比率になっている。現在、管理職含め4名体制で市内は昼間、夜間に訪問しながらお願いをしているが、管内については月に1回程度しか回れていない。今考えているのは、管外については滞納整理会社の方をお願いをするのが効果的ではないかということで、併せて検討をしている。
・ 以前から話されているが病院の待ち時間の問題、予約をして行っても2時間、3時間と待たされる。解消はできないのか。	・ 待ち時間については、現在は基本的には1時間以内。しかし、例えば病棟の方で患者さんが急変したということで院内放送を流すが、医師がそちらの方に行かなくてはならないといった場合には外来を待っていただくという状況が頻繁に発生している。こういう形の中で時間が延びているということがあるので、医師の確保がきちっとできない限りは患者の皆さんにもご迷惑をかける状況が続くと考えているが、何とかやり繰りをしながらでもご満足いただける形に持って行きたいと考えている。
・ 遅れている時は何か表示をされているようだが患者にはわかりにくい。その都度ある程度の説明があった方がわかりやすいし、患者も納得できると思うが、特に眼科は目が悪くて行っているのに、表示だけではわからない人もいるので配慮してほしい。	・ 最近は院内放送や個別の場合は看護師が説明をしたり、待ち時間を数字で示すなどしているが、今後もなるべくわかりやすいような形でお知らせしていく努力をしていく。
・ 必ずしも赤字要因になっている救急、小児、周産期は留萌市民だけの問題ではないと思う。前の懇談会では管内の町村と話し合いをするということになっていたと思うが、その進行状況を教えてほしい。	・ 私も管内町村に出向いて各町村長にお願いをしてきた。各町村の負担については、それぞれの議会での議決など必要な手続きもあり、今年度においては全体での決定までは至っていないが、22年度は間違いなく支援していただけるということでご理解願います。
・ 基本的には患者数に応じた負担になるのか。	・ 全道の2次医療圏21機関の内7割近くが採用している負担方法があり、救急の部分で1機関あたりトータル3,500万円ほどになり、それを救急の患者数に応じた割合で負担している。市立病院においてもこの形でお願いして行かざるを得なく、3,500万円を留萌市を含めて救急の患者数に応じて負担していくことになる。
・ 家族が市立の療養型ベッドを利用させてもらっているが、病室がかなり空いている。料金的にも他の施設より3万円から4万円くらい高い。市内の人も利用したくてもできない世帯もあるのかなと思うがどう考えているのか。	・ 一般病棟では健康保険の適用を受けられるため個人負担の部分はある程度抑えられるが、療養型になると同じ病院内ではあるが、健康保険の全てが適用になるということにはならないので、その分が個人負担として月15,000円から20,000円くらい増えることになる。
・ 病院自体は儲かる施設ではなく、実際人口が減っていき高齢化になっていけば医療より介護が必要な人が増えていくと思う。	・ 基本的には療養については一次医療機関の先生にお任せすることになってはいるが、現在病床が空いているという状況もあり、病院の改革プランでは一般病床が248床、残り102床については有効利用を検討していて、当面は50床を高齢者のための長期療養型として運用している。市内の先生方も療養についてこれから更に取り組んでいくと聞いているので、市立病院としては本来の機能である急性期、亜急性期、回復期リハビリ病棟に切り替えていきたいと考えている。

・ 院長はじめ病院が本当に努力していることを、市民に対してもっとPRして理解してもらわなければならないのではないか。市立病院でこれだけ高度な治療ができて、どのような医師がいるのかも市民に対して伝わっていないのではないか。例えば色々な取り組みを待合室でモニターとかで流すとかもっと市民にPRをしないといけない。また、せっかく優秀な医師が来てくれているので、その人達を酷使しすぎないで市民こそって大事にするのだということも伝えていってほしい。	・ 公的な病院のPRの制限というのがあって、テレビコマーシャルをどんどん流すなどはできない。医療機器の更新時期も迫ってきて院内放映などの整備にかける経費も厳しいことをご理解いただき、病院が取り組んでいる一つひとつのことを理解していただけるよう、周知の努力を続けていきたい。
・ 病院も明るい見通しがもてるのかなとうれしく思っている。パンフレットでサポートしている団体とかボランティアで支援してくれている方がいるが、そういう方をもっともっと増やしていくと、もっと市民も理解されるのかなと思う。また、腰痛体操などを待合室で流したりするといったのかなと感じる。	・ 現在、ボランティアスマイルということで約40名の方が病院のために一生懸命ボランティアをさせていただいており、大変感謝している。病院としても活動内容などをPRしながら、ボランティアの拡大に努めていきたい。また、予防の運動なども当然必要と考えており、院長、多田先生含め健康の駅での健康づくりに取り組んでいることもあり、上手く連携して取り組んでいけるようにしたい。
・ 医師住宅を建てると土地を購入しているが、空き地のままで草も茂っている。購入金額と管理体制はどうなっているのか。	・ 平成16年当時、医師が34名ほどいて、これからも増えていく見込みの中で医師住宅を確保したいということで、約8千万円で東雲町にその用地を求めた。その後、建設の手法などを検討している最中に国の制度が変わり、平成18年には医師が25名まで減り、今の状況では医師数の動きが落ち着くまで医師住宅建設を凍結し、民間の賃貸物件に代替をお願いしている状況。平成22年に病院前にある16戸の医師住宅の契約が切れるという状況で、それも含めてどのように活用していくのが決めていかなければならないと考えている。病院で建てる予算は無いが、民間に建設してもらい賃貸する方法で考えている。
・ ただ寝かしておくのであれば金利負担含めておかしいのではないか。市でできないものは民間に渡して売ってしまった方が経費がかからないのではないか。	・ 医師住宅を建てたいという気持ちは十分あるので、検討していきたい。

【小中学校の配置計画の考え方について】

・ 教育委員会の姿勢として児童数が減っていくことだけを念頭に置いて学級編成を考えているようだが、留萌市にもっと児童を呼び寄せるような山間留学だとかのアイデアのようなものは委員会内では出ないのか。 ・ 教育に関してはスキー場が使えない、プールも使えない、例えば転勤族であっても留萌市の学校教育に対して自然を生かした魅力というものが何にも無いなかで、児童の減少を一番の理由として学級編成、学校統廃合を考えていくと、東光と留小くらいになってしまって、そのような危機感はないのか。	・ 山間留学だとか具体的な話しは考えていない。 ・ 児童生徒が増えていくには人口が増え、子供がたくさん生まれてくれば増えてくると考えているが、色々な方法で小中学校の留萌市の環境を生かした形での、色々なことを考えながら教育にあたって行きたいと考えているので、今後適正配置の中でも皆さんに色々なことでも意見を伺っていくので、そういった意見を参考に計画を策定していきたいと考えている。 ・ 人口減少時代にどんどん生徒、児童が少なくなっていく、ただそれを指を咥えて見ているのではなく、小中学校の中でも自然を生かして農業体験とか漁業体験があるとか、色々な特色を生かしたどういう授業を提供できるのか、子どもたちの環境を市民みんなが組み立て、訪れる人が留萌の街だからと思えるような何かが起こるようなことを組み立てていかなければならない。
・ ぜひ検討委員会の中でも、幌糠にも耐震化に問題のない建物があり学校だったということを考慮してもらい、できれば再開してほしいと希望している。	・ できるだけ意見を伺い、努力はしていきたいと思います。
・ 小中学校の統廃合も仕方の無いことかなと思うが、高校の間口も減になると聞いている。これは道のかかわりであるが、留萌市としてもっと強く進めないとどんどん減らされていくという状況になるのではないかと。教育委員会なり留萌市がきちんとしたものを持っていないとならないのではないかと。	・ 留萌高校については今年1間口減り、明年復活をしていただきたいということで道教委と話し合いをしたが、やはり将来的にも生徒数が減ってくるということで、間口復活の増については現状のままということになった。千望高校と留萌高校を将来的にどうするかということも道教委から地域に問われているので、今後については新しく留萌高校のあり方を考える会を組織し、留萌高校なり千望高校をどうしていくのかということをも市民ニーズの中で話し合っ、地域から要望などを出していきたいと考えている。

	・ 学級の間口について、人口減だから減るという理論はいけない。北海道で高校教育をどうするか議論するために、高校教育の中で一クラス40人が適正なのかどうか、職業体験をしたり職業に対する意識を学び、専門的な知識を得るために、本当に少ない子どもたちをどう教育するかということを、もう一回教育環境というものをもっともっと議論して、今後の再編計画を進めていくべきだと思っているので、ご指摘の点を踏まえて市からも北海道と色々な協議をし、道議会においても十分議論をやっていただきたいと思っている。
・ 市内では高校で終わり。その後進学するとしたら地方へ出なければならない。それが活気が無くなる、若者がいなくなる一番の原因だと思う。例えば介護の学校とか、高校が終わった後進めるような、そして留萌に住まわせるような、若い人の流出を食い止めるような体制を考えてほしい。	・ 大学を誘致するということも厳しい状況にある。しかし、この度も函館の未来大学の生徒が来て、あるいは東海大学との交流、更には人材開発センターを利用して、高校を出て何か技能を修得するシステムを具体的に広域的に取り組んでいかなければならないと考えている。

【健康の駅の利用状況と健康いきいきサポーターの登録状況について】

・ 潮静から健康の駅へ行きたい人がいても足がない。また、夏場なら良いかもしれないが運動をして汗をかいて、冬場なら着替えが必要なので風呂かシャワーがあればもっといいと思うが。	・ 風呂、シャワーは非常に経費がかかる問題で、最初は更衣室もなかったが、何とか更衣室を作り、今後休憩の場所を作っていきたいと思っている。中に入ると意外と狭いが、更衣室などで休める場所にもしていきたいと思っている。また、健康の駅と地域のコミセンを結びつけて健康づくりを進めていきたいと考えているので、例えば運動プログラム、ヨガとかふまねっとの講師は地域に出向くことにしているし、運動だけではなく健康づくりの色々な話もできるので、ぜひ健康の駅に申し込みをしていただきたい。
・ 評判がすごくいいですね。一日いっぱいそこに居たい雰囲気ですよ。	・ 休憩室もありますので、ぜひお弁当を持って皆さんで利用してください。

【公共交通空白地域のバスの試験運行について】

・ 市立病院に患者が行くためのバスか。	・ それもあるが、商店街に行くためのバスでもある。バス停での乗り降りには自由になっていて、公共交通空白地域と商店街、市立病院の3カ所を結ぶものです。
・ 試験運行期間を過ぎたらもう運行しないのか。	・ あくまでも試験運行で、今回の試験運行でニーズ把握や乗降調査を実施し、今後の公共交通のあり方にどのように取り入れて計画を策定していくのかというものです。
・ 結果によっては継続するということはあるのか。	・ 乗車が多ければ路線化ということになるかもしれないが、採算が取れるかという問題もあると思うので、その辺りが課題になっていくと思う。
・ 市民が動くのは公民館が中心になっている。公民館に行くのにバスが無いことが色々な活動のネックになっている。公共施設をどう繋げるかが大切なことと日頃から思っている。	・ そのようなことを含めて、今後留萌市の公共交通をどのようにしていくかという計画を策定していく。その中でもバス会社とも色々協議をしたが、道幅の関係でどうしても行けないところもあり、公民館は見晴公園のところにバス停を設けた。 ・ 交通体系については、文化センターはこの街の中心になるので、総合的にコミュニティバスとか乗り合いタクシーとか色々な方法と連携しながら市民ニーズに応えるために調査、研究活動を進めて行きたい。

【地産地消と賑やかな商店街について】

・ 留萌米の消費が少ないということだが、一番の問題点は価格ではないかと思う。輸送コストがかからないのに他産地の米と比べて割安感がない。地元の米は他の産地の米より安い、割安感が課題になってくと思うが。また、ナマコは地元でも手に入らないので地産地消にはならない。	・ 米の価格は確かに200～300円くらい違うと思う。元々空知でブレンドするのに作られていて、そのためある程度ブレンドに出す価格に応じた価格にならざるを得ないという部分もある。しかし、その分間違いなく食味で、また留萌米は地元で精米して短期間で消費するので、新鮮でおいしいお米をあつねで食べることができるということで、ご理解願いたい。ナマコについては確かにご指摘の通り地元ではほとんど出回っていないのが現状。しかし、いずれにしても農業、漁業の人を元気づけてやるということが一番大切なことだと思っているので、ご理解をお願いします。
---	---

【その他】

・ 子どもに対する施策が全然謳われていない。例えば神居岩のスキー場やぶるもを再開するとか、そのような施策があれば教えてもらいたい。	・ 今まで子どもたちの学ぶ環境、育む環境として色々な施設を作ってきた。施設整備にかかる経費など確かに大きかったが、長い期間でのある程度の回収をするなど人口増の中ではそのようなことはできたが、現在は子どもたちの減少など、人口が減少していく中で子どもたちをどう育てていくのか、もう一度、その地域にある自然を、その豊かさを子どもたちに伝えていく教育をやっていくべきだと考える。保育園や幼稚園の子どもは芋を植えたり田植えをしているが、学校の生徒というものはもっともっと積極的に田植えなどを体験してほしい。 プールについてはできることなら持続したいという強い思いが私の中にはあります。子どもたちにとっては授業で楽しむ、土日家族で来てスキー場で楽しむ、そしてプールで楽しむ、そういう、子どもたちが夢と希望に萌えてはしゃいでいる姿を見ると、もう少し費用がかからなければ回復したいという強い思いはあるが、現状においてはなかなかうまくいかない。 観光協会が少しでも子どもたちに楽しんでもらいたい、夏休みの宿題に少しでも手助けをしようということで、夏休みの途中からだったが海鳥観察室を開設した。 子どもたちが千望台の憩いの森で鳥を観察したりキノコづくりの体験をしたり、もう一度今ある自然を感じてもらい、学校の中で体力を鍛えるために、先生方にアイデアをいただきながら、プール事業の代わり、スキー授業の代わりといえは本当につらい部分があるが、子どもたちが生き生きということをしかりとやっていきたくもう一つは子どもたちに食育をしっかり学んでもらいたい。よく食べて、よく運動して、よく寝てもらうことをもう一度子どもが小さい内から親が責任を持って教えるために、健康の駅で親子そろって一緒に食べることの勉強会を開いて自分たちで物を作ったり留萌のお米で米粉ビザ作りなど、今までの施設で喜びを与えていた部分ができなくなったので、もう少し手作りで、心から親子そろって子どもたちに新たな喜びを与えられるような部分で連携を図って行きたい。 歩くこと、走ること、子どもたちにはスポーツの原点から学んでほしい。体育協会では新たな取り組みをしているので、体育協会にも積極的に支援をしてもらいながら進めたい。 子どもたちのことを言われると私もつらいが、財政再建を何とか計画通り進めていきたい、病院について笹川院長と共に医師確保を確実なものにして病院会計を安定させ、財政再建を一刻も早くやり遂げて、子どもたちに笑顔を取り戻せるような施策を一つ一つ組み立てていきたい。
・ 市議会議員の議員報酬が16名で8千万円強、議員歳費を含めると1億円近いが、これを削減して子どもたちの施策にという提案が議員たち自らするべきではないか。矢祭村が日当制で一人年間90万円ほど。このようにすると年間7千万円から8千万円の削減ができる。話によると議員報酬を生活に充てているとも聞くが、生活は議員報酬を充てるべきではないと考える。 ・ 7年間我慢をしていくのだから、議員も7年間我慢できないのか。	・ 議員の職制については世界的に色々なところで話が出る。ある国ではボランティア的なところもあり、医者やボランティア団体の代表が政治家を兼務するという形で成り立っているところもある。留萌市の場合は今回の財政再建の中でも議員と色々議論し、議会の方でも自ら給与や経費の削減に協力いただいて新たな財政健全化計画を作っているの、議員の職制については今後も全国的に色々なご意見は出てくると思うが、その判断について今私がするのは難しい。 ・ 議員の給与等の削減は協力して7年間削減していただく。みんなで我慢をして、ともかく病院の再建、借金を返して、その中でもう一度議論をしていただきながらプールの再開がいいのか、また固定資産税で多くの市民に迷惑をかけている部分を回復していくの、皆さんと常時対話をしてコミュニケーションを図った中でのご意見をできるだけ尊重して判断していきたい。
・ 市議会議員は選挙の時以外はなかなかお目にかかれない。懇談会では市民の色々な意見も聞けるのだから、ぜひ議員にも参加するよう働きかけていただきたい。	
・ 三泊小は来年度で統廃合になるが、耐震の関係も含めて学校自体が避難所になっているが問題はないのか。 ・ 地震が来て津波が来るのでは。この地区はそれ以外の災害はあまり考えられない。	・ 地震の場合は耐震化の問題はあるが、高台にあるので災害の種類によっては避難所として使えるとも考えている。今後住民の皆さんとお話をさせていただきながら、災害時の対応を考えていきたい。 ・ 確かに小学校は耐震の問題はあるが、学校としての方針が決まったので、今後、三泊、塩見の住民の皆さんと色々ある災害の種類によってどこに避難するのかといったことを相談させていただ

・ この間お話があったが、津波の場合は三泊小、水害の場合は住民センターに避難とお話を聞いている。	きながら進めていきたい。
・ アンケートの中でもう決まっているもの、例えばプールの休止に賛成か反対かというのがあるが、みんなが反対に丸付けてもどうにもならないでしょ。	・ 今後、財政健全化計画の通り進めていく中で、私共としても1年でも早く何とか健全な財政運営をしていきたい。その中で今後優先順位を付けてどこから回復していくのかを考えなければならない。
・ 見晴通り、商店街と折り合いがつかないようだが、延期になるのか中止になるのか、どの辺りまで話が進んでいるのかお聞きしたい。	・ 見晴通りを建設するにあたっては都市計画審議会で計画変更することになる。今回の道路は日東団地を通り野本町まで道道として整備するので、道路も拡幅になりある程度の移転件数になる。その中で野本町の方からそのような形で道路整備がされると移転により世帯が減り町内会が崩壊してしまうという意見もいただいた。商店街においてもラルズが急遽、来年の2月に撤退することになって、ラルズを中心に駅から商店街が連なっているが、商店街の地域の皆さんから流動人口というものを色々考えていく中で留萌全体の道路というものを建設するべきでないかというご意見もいただき、今回、都市計画審議会の中でも、もう少し皆さんの詳しい意見を聞かなければならないということで、もう少し時間をかけるということになったものです。
・ 沖見町の開発官舎跡地の更地の管理について、草を1回も刈っていないようで地域では困っている。 ・ 草だけならまだいいが、草が伸びるとゴミを投げる人がいて、それが困っている。町内会からは言いにくいので市から言ってほしい。	・ 国の用地が荒れた状況、市も病院跡地の管理のこともあり、民間企業を含め空き地、空き家など環境美化の問題もあり、今後の課題として受け止めていきたい。 ・ 環境美化という基本的な部分があるので、空き地の状況がどうなっているのかをしっかりと把握して、地域の皆さんに協力していただける部分は協力していただきながら、また、市の方としてできる部分があれば検討していきたい。
・ インフルエンザの流行が原因かわからないが、最近肺炎球菌が原因で亡くなっている方がかなりいる。市もお金がなく予防接種はできないのかなとは思いますが、医療費の縮減にも繋がることと思うのでお聞きしたい。	・ 高齢者が風邪をひいたりすると肺炎球菌の影響が大きいと認識している。現在、肺炎球菌ワクチンの接種も検討している。このような財政状況ではあるが、これが医療費を大きく防ぐこともできるのかなとも考えており、その辺りのことも考えていかなければならないと思っている。
・ 本州では村の多くの道路を住民が行政から生コンをもらって自分たちで作った。人を大切にすることで人口も増えた。自分たちで、地域でできることはまだまだあるのかな、何でもかんでも行政に頼るのではなく、できることは自分たちでと思って発言させてもらった。	・ 新しい協働時代、正にそのことだと思う。地域の皆さんやNPOなどに取り組んでいただくこと、そういうものを皆さんにやっていただきながら、行政としての責任、また国としての責任は、ただ箱物を作るのではなく、国全体で地域の医療圏を守る体制、国家として、行政としての安全力、そしてそこに地域に住む住民の安心感、安らかな心になる。また雇用に対しての安心安全や環境問題もある。行政としてやるべきことは再度、しっかりやらなければならない。私としても行政を預かった以上、信頼される市役所から、より市民の皆さんから期待される市役所として頑張っていかなければならない。
・ 市政懇談会に市の職員が多すぎて、市民は参加しにくいし発言もしにくい。	・ 現場を一番知っているのは課長であり、現場の状況を知っているのが大事である。今後は少ない人数で地域を回っても良いかなと思っている。